



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	中間貯蔵施設立地地域における社会的景観の可視化の試み
Alternative_Title	Attempt to visualize the social landscape of the area for located the interim storage facility
Author(s)	坂原 桜子(神戸大学), 長野 宇規(神戸大学), 保高 徹生(産業技術総合研究所), 高田 モモ(産業技術総合研究所), 金井 裕美子(産業技術総合研究所) Sakahara, Sakurako(Kobe Univ.); Nagano, Takanori(Kobe Univ.); Yasutaka, Tetsuo(National Inst. of Advanced Industrial Science and Technology); Takada, Momo(National Inst. of Advanced Industrial Science and Technology); Kanai, Yumiko(National Inst. of Advanced Industrial Science and Technology)
Citation	第 11 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.22 The 11th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：復興への後押し
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/251040
Right	© 2022 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 11 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



中間貯蔵施設立地地域における社会的景観の可視化の試み

坂原桜子¹⁾²⁾・長野宇規¹⁾・保高徹生²⁾・高田モモ²⁾・金井裕美子²⁾

1)神戸大学、2)産業技術総合研究所

1. はじめに

中間貯蔵施設の立地地域では、住居の解体や農地の荒廃、除去土壌等の搬入や貯蔵施設の建設が進み、土地の姿が大きく変わりつつある。2045年の県外最終処分後には現状復旧される予定であるが、跡地利用の計画は、過去の土地の歴史や土地と人の関わりを踏まえたものであることが重要である。本研究では、福島県双葉郡双葉町細谷地区を対象に、原発の立地前まで遡って暮らしの記憶の聞き取りを行い、人の関わりを含む景観（社会的景観）の変遷と地域の特徴的な景観を明らかにすることを目的とした。住民が一同に会することが困難であり個人への聞き取りが中心となるため、データを集約してテキストマイニングを行い、場所と語の結びつきの強さに着目することで特徴的な社会的景観を抽出し、地図上に描画することで可視化を試みた。

2. 方法

双葉町細谷地区の住民3名（80代男性に1回、70代男性・70代女性に2回）に個別の聞き取りを実施し、地区の祭事開催時に住民8名（50代～70代男性）と現地を歩きながら聞き取りを実施した。原発建設前（1963年）・第一原発工事開始期（1975年）・震災前（2000年）の3時期の航空写真を用いて、各年代の当時の年齢・職業、場所の利用や近所付き合いに関する記憶を尋ね、適宜場所や年代を特定しながら聞き取りを実施した。

聞き取り内容の文字起こしを行った後、記憶を3時期（1974年以前／1975年～2000年／2000年以降）に分類し、場所との対応がある記憶を分析に使用した。場所の利用法を分類することで、時期ごとの特徴を把握した。また、KH Coder (ver.3.Beta.03i) の共起ネットワーク作成機能（同時に出現する頻度の高い語同士の繋がりを表現）を用いて、場所ごとに頻出語を抽出した。その後、地図上で場所の位置関係を対応させて表示した。

3. 結果

各インタビューの結果、原発建設前93個、原発建設後67個、震災前81個の場所の記憶データを得た。採集や生業、仕事に関する記憶が多く得られた（図1・表1）。聞き取り協力者の子供時代にあたる1974年以前は遊びや通学の記憶が多く、成人後にあたる1975年以降は仕事や生業の記憶が多く得られた。

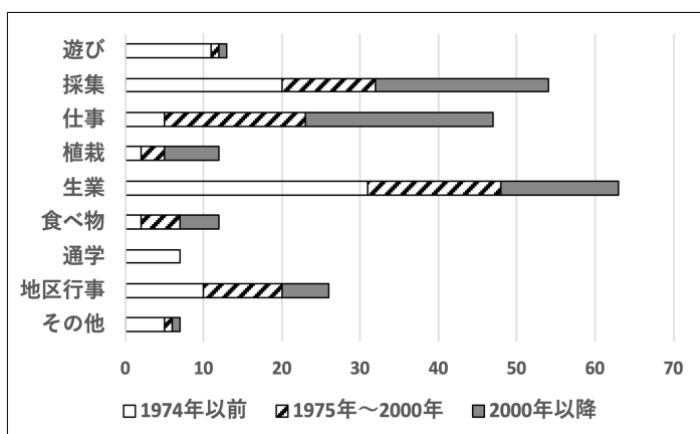


図1 3時期の記憶の違い

表1 場所の利用法の分類

分類	具体例
遊び	遊泳、釣り、山遊び
採集	山菜、キノコ、魚
仕事	出稼ぎ、東電関連企業、消防団
植栽	庭木、花
生業	農業、塩業、砂鉄
食べ物	米、野菜、魚、山菜、キノコ
通学	小学校、中学校、高校
地区行事	盆踊り、冠婚葬祭、手休め
その他	歴史、病院、学校

付記：本研究は環境総合推進費 SII-9-3-1 「持続可能な環境管理に向けた社会受容性評価と多面的評価法」（代表者：保高徹生）の調査研究成果の一部である。

Attempt to visualize the social landscape of the area for located the interim storage facility
Sakurako Sakahara¹⁾²⁾, Takanori Nagano¹⁾, Tetsuo Yasutaka²⁾, Momo Takada²⁾, Yumiko Kanai²⁾

1)Kobe University, 2)National Institute of Advanced Industrial Science and Technology